

# 資料編

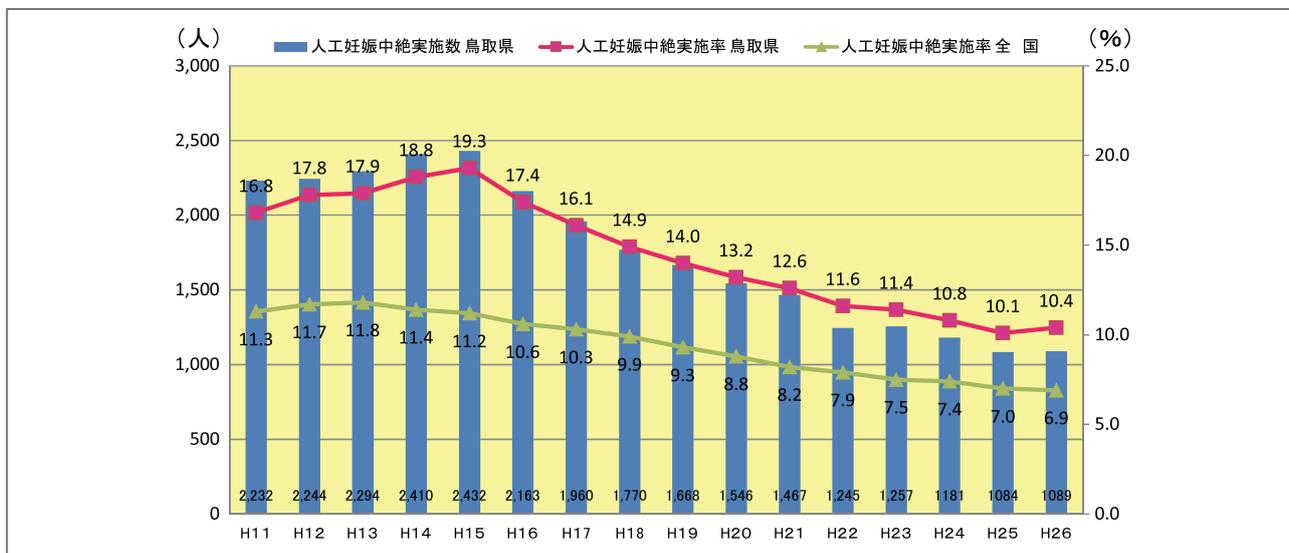
この資料編は、学校現場の先生方に知っておいていただきたい内容や情報を、整理したものです。

実際の指導は、学習指導要領に基づいて行っていただきますようお願いします。

# 1 鳥取県における10代の人工妊娠中絶の実態について

※ 鳥取県の人工妊娠中絶率は、全国と比較して、依然、高い数値であるが、徐々に減少傾向にある。

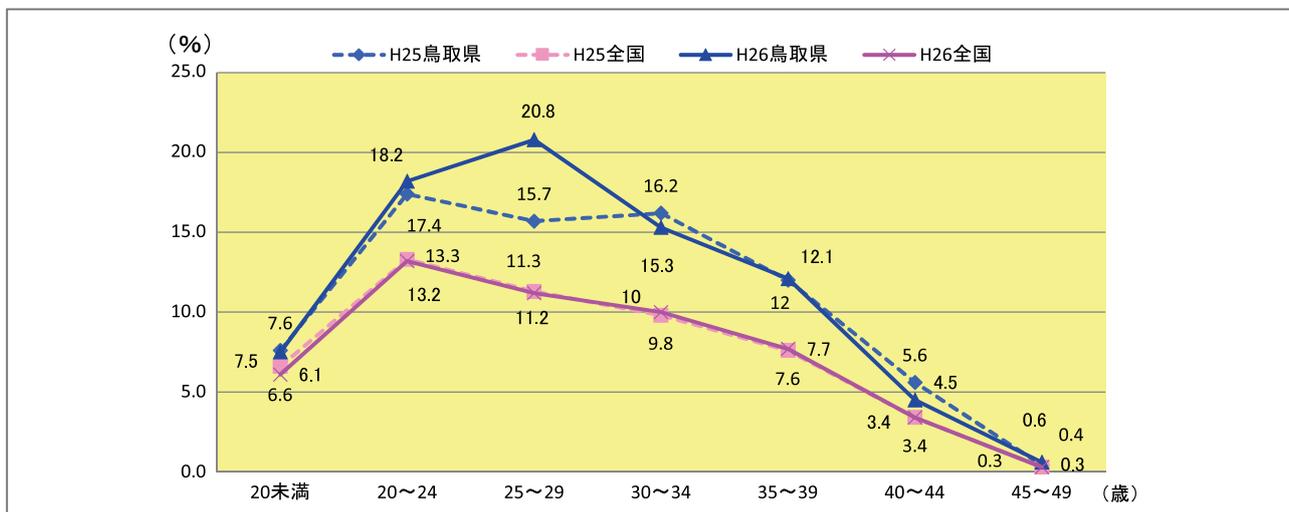
## 鳥取県人工妊娠中絶実施率(全年齢)



## 鳥取県人工妊娠中絶実施率(20歳未満)



## 平成25年・平成26年年代別実施率



## 2 鳥取県における HIV 感染者 / エイズ患者の現状について

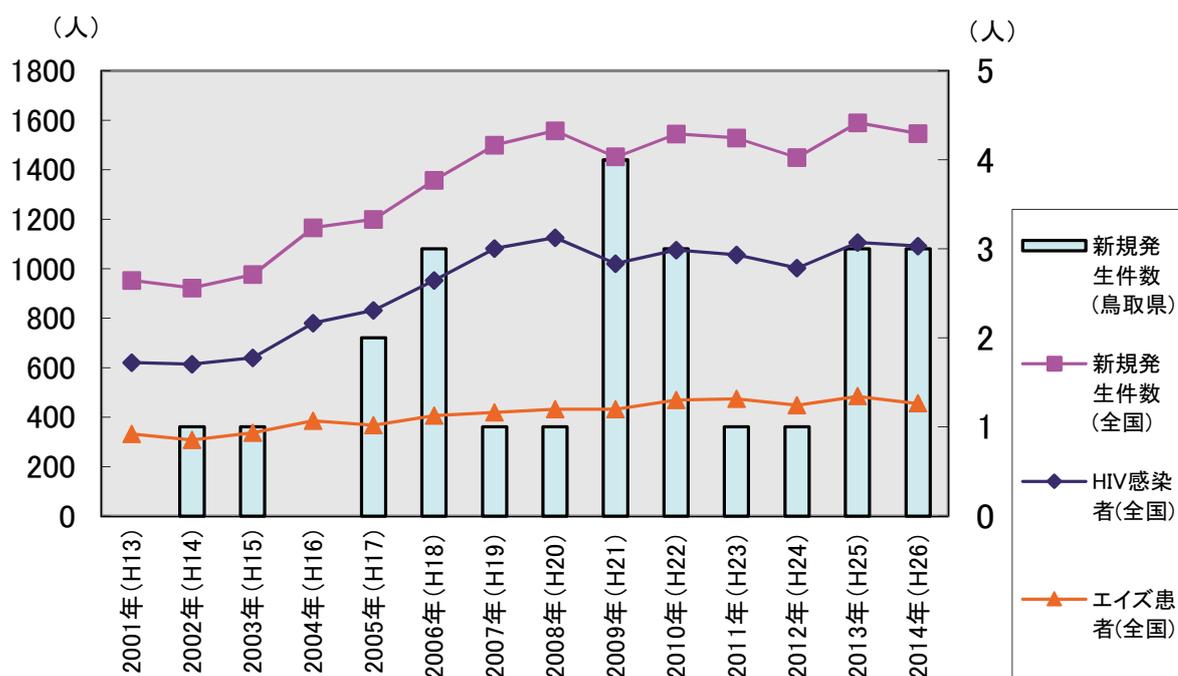
(1) HIV感染者及びエイズ患者の年次推移(全国・鳥取県)

(単位:人)

年	全国			鳥取県		
	新規発生件数	内訳		新規発生件数	内訳	
		HIV 感染者	エイズ患者		HIV 感染者	エイズ患者
2001年(H13)	953	621	332	0	0	0
2002年(H14)	922	614	308	1	1	0
2003年(H15)	976	640	336	1	0	1
2004年(H16)	1165	780	385	0	0	0
2005年(H17)	1199	832	367	2	1	1
2006年(H18)	1358	952	406	3	2	1
2007年(H19)	1500	1082	418	1	1	0
2008年(H20)	1557	1126	431	1	1	0
2009年(H21)	1452	1021	431	4	3	1
2010年(H22)	1544	1075	469	3	0	3
2011年(H23)	1529	1056	473	1	0	1
2012年(H24)	1449	1002	447	1	0	1
2013年(H25)	1590	1106	484	3	1	2
2014年(H26)	1546	1091	455	3	0	3

(エイズ発生動向年報)

■ HIV感染者及びエイズ患者の年次推移(全国・鳥取県)



## (2) HIV感染者及びエイズ患者の年次推移(全国・性別)

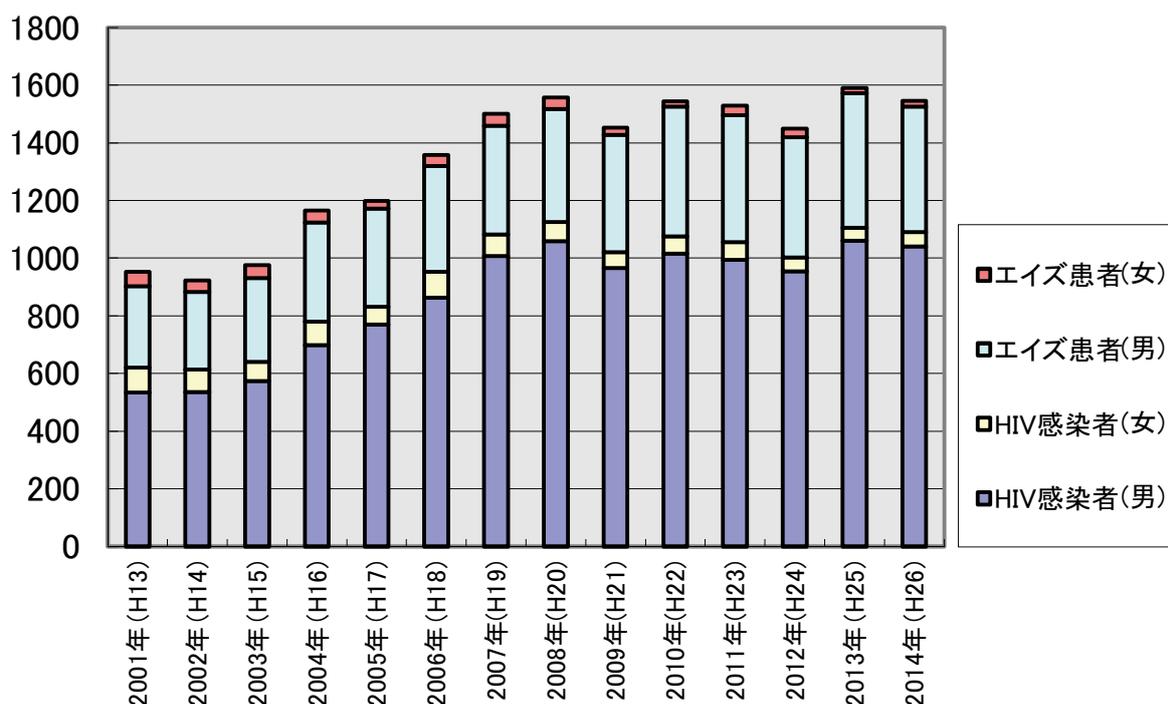
(単位:人)

年	HIV感染者			エイズ患者		
	男	女	計	男	女	計
2001年(H13)	534	87	621	282	50	332
2002年(H14)	536	78	614	268	40	308
2003年(H15)	573	67	640	291	45	336
2004年(H16)	698	82	780	344	41	385
2005年(H17)	769	63	832	340	27	367
2006年(H18)	863	89	952	368	38	406
2007年(H19)	1007	75	1082	377	41	418
2008年(H20)	1059	67	1126	391	40	431
2009年(H21)	965	56	1021	407	24	431
2010年(H22)	1015	60	1075	450	19	469
2011年(H23)	994	62	1056	440	33	473
2012年(H24)	954	48	1002	418	29	447
2013年(H25)	1060	46	1106	466	18	484
2014年(H26)	1041	50	1091	435	20	455

(エイズ発生動向年報)

## ■ HIV感染者及びエイズ患者の年次推移(全国・性別)

(人)



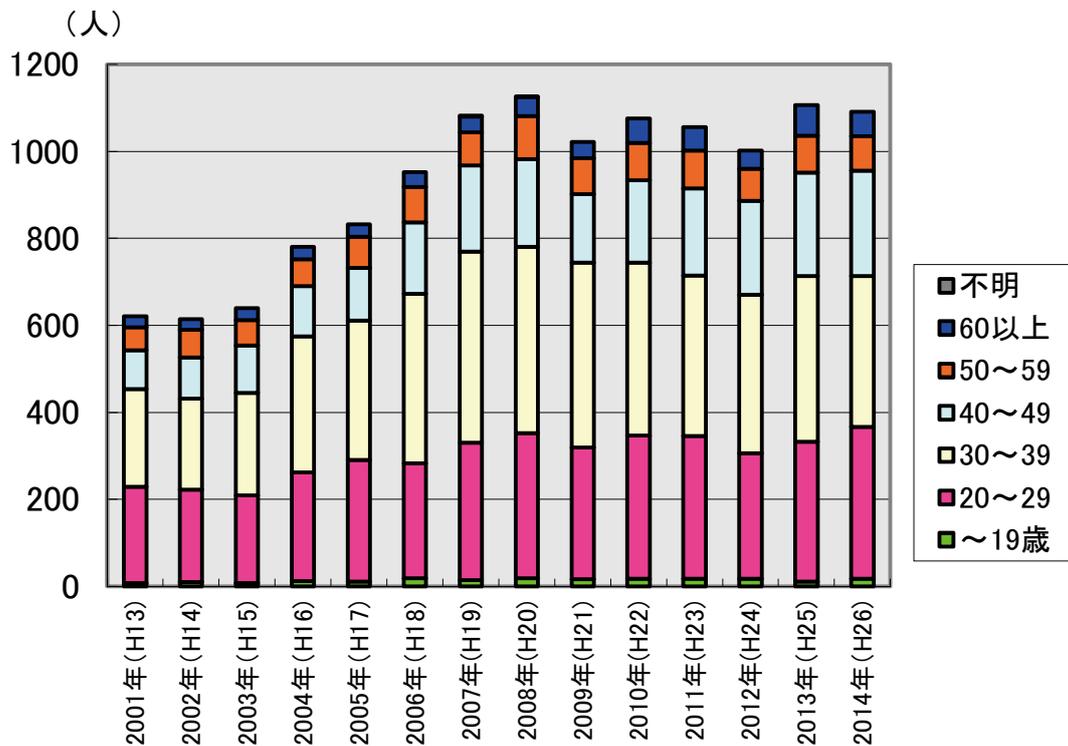
(3) HIV感染者の年次推移(全国・年齢階級別)

(単位:人)

年	～19歳	20～29	30～39	40～49	50～59	60以上	不明	計
2001年(H13)	8	221	224	90	52	26	0	621
2002年(H14)	10	212	209	95	64	24	0	614
2003年(H15)	8	201	236	109	58	28	0	640
2004年(H16)	12	250	313	115	62	28	0	780
2005年(H17)	11	279	321	121	72	28	0	832
2006年(H18)	19	264	390	164	81	34	0	952
2007年(H19)	14	316	439	199	75	37	2	1082
2008年(H20)	19	333	428	202	99	44	1	1126
2009年(H21)	16	303	425	157	83	37	0	1021
2010年(H22)	18	329	397	190	85	56	0	1075
2011年(H23)	17	329	368	201	87	54	0	1056
2012年(H24)	17	289	364	216	74	42	0	1002
2013年(H25)	11	321	381	238	85	70	0	1106
2014年(H26)	17	349	347	243	79	56	0	1091

(エイズ発生動向年報)

■ HIV感染者の年次推移(全国・年齢階級別)



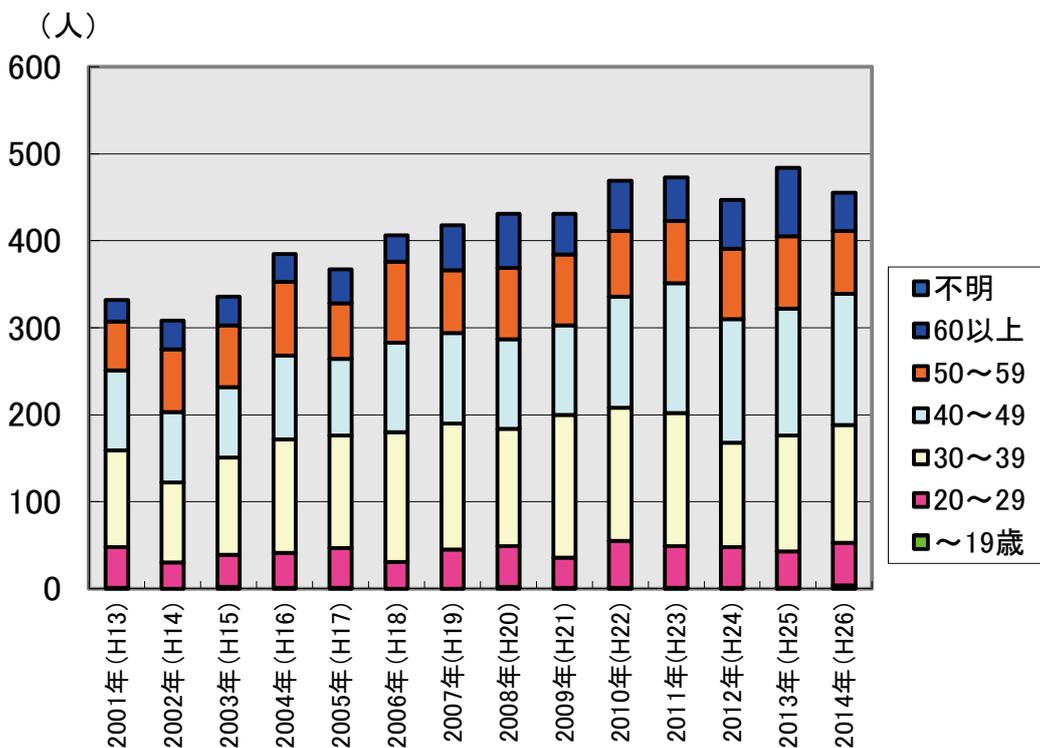
(4)エイズ患者の年次推移(全国・年齢階級別)

(単位:人)

年	～19歳	20～29	30～39	40～49	50～59	60以上	不明	計
2001年(H13)	1	47	111	92	56	25	0	332
2002年(H14)	0	30	92	81	72	33	0	308
2003年(H15)	2	37	112	81	71	33	0	336
2004年(H16)	1	40	131	96	85	32	0	385
2005年(H17)	1	46	129	88	64	39	0	367
2006年(H18)	0	31	149	103	93	30	0	406
2007年(H19)	0	45	145	104	72	52	0	418
2008年(H20)	2	47	135	103	82	62	0	431
2009年(H21)	1	35	164	103	81	47	0	431
2010年(H22)	1	54	153	128	75	58	0	469
2011年(H23)	1	48	153	149	72	50	0	473
2012年(H24)	1	47	120	142	81	56	0	447
2013年(H25)	1	42	133	146	83	79	0	484
2014年(H26)	4	49	135	151	72	44	0	455

(エイズ発生動向年報)

■ エイズ患者の年次推移(全国・年齢階級別)



### 3 HIV/ エイズ以外の性感染症について

#### < 定点報告 >

県内での発生状況を地域的に把握するため、人口や医療機関の分布等を勘案して選定した医療機関からの報告数。

(定点報告医療機関数) H11.4～H19.12 3医療機関  
 H20.1～H22.7 5医療機関(泌尿器科2病院を追加)  
 H22.8～ 7医療機関(産婦人科2病院を追加)

#### (1) 性器クラミジア感染症

(単位:人)

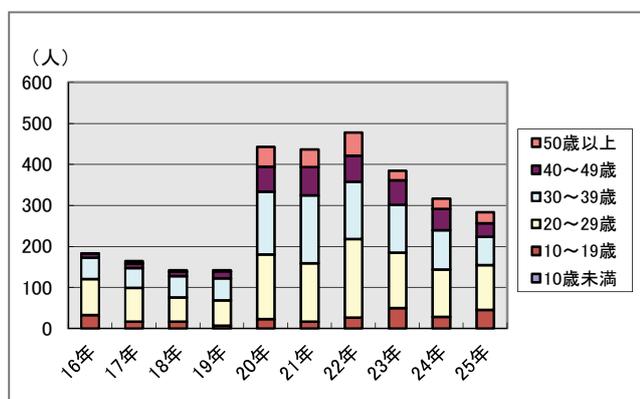
	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年
10歳未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10～19歳	32	16	16	6	23	16	26	49	28	45
20～29歳	88	83	59	62	157	143	192	136	115	109
30～39歳	52	48	52	54	153	165	139	116	96	69
40～49歳	10	11	11	17	61	69	64	60	52	33
50歳以上	1	6	4	3	48	43	56	23	25	27
計	183	164	142	142	442	436	477	384	316	283

#### (2) 性器ヘルペスウイルス感染症

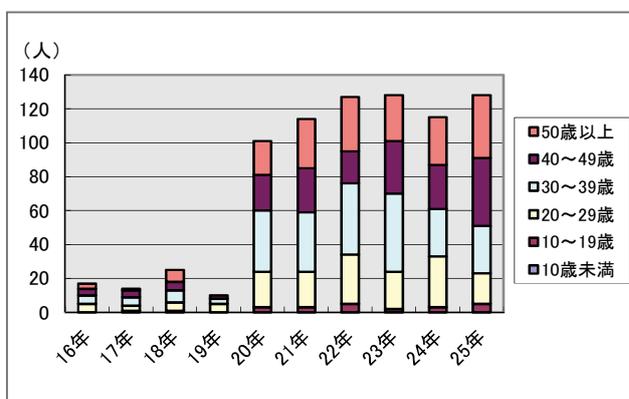
(単位:人)

	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年
10歳未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10～19歳	0	1	1	0	3	3	5	2	3	5
20～29歳	5	3	5	5	21	21	29	22	30	18
30～39歳	5	5	7	3	36	35	42	46	28	28
40～49歳	4	4	5	2	21	26	19	31	26	40
50歳以上	3	1	7	0	20	29	32	27	28	37
計	17	14	25	10	101	114	127	128	115	128

■ 性器クラミジア感染症



■ 性器ヘルペスウイルス感染症



(3) 尖圭コンジローマ

(単位:人)

	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年
10歳未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10～19歳	2	0	6	1	1	0	5	4	2	2
20～29歳	7	6	6	2	9	21	26	19	22	11
30～39歳	1	7	6	3	8	16	14	13	17	10
40～49歳	0	1	2	0	6	4	8	5	9	8
50歳以上	0	3	0	1	1	7	9	14	8	9
計	10	17	20	7	25	48	62	55	58	40

(4) 淋菌感染症

(単位:人)

	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年
10歳未満	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
10～19歳	4	2	2	1	6	7	11	12	9	15
20～29歳	28	25	15	13	59	71	120	59	39	39
40～39歳	20	24	7	8	86	85	113	65	36	26
40～49歳	9	11	7	3	33	41	53	49	22	10
50歳以上	3	7	2	5	31	26	52	21	19	8
計	64	70	33	30	215	230	349	206	125	98

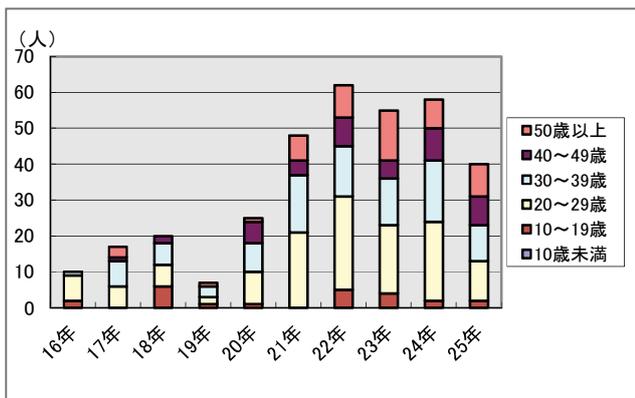
<全数報告>…県内の全医療機関からの報告数。

(5) 梅毒

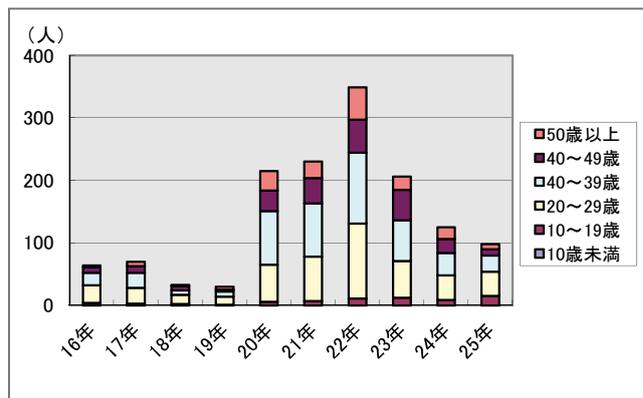
(単位:人)

	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年
全数	1	1	0	4	0	4	3	0

■ 尖圭コンジローマ



■ 淋菌感染症



(出典)鳥取県感染症発生動向調査事業報告書

<http://www.pref.tottori.lg.jp/223369.htm>

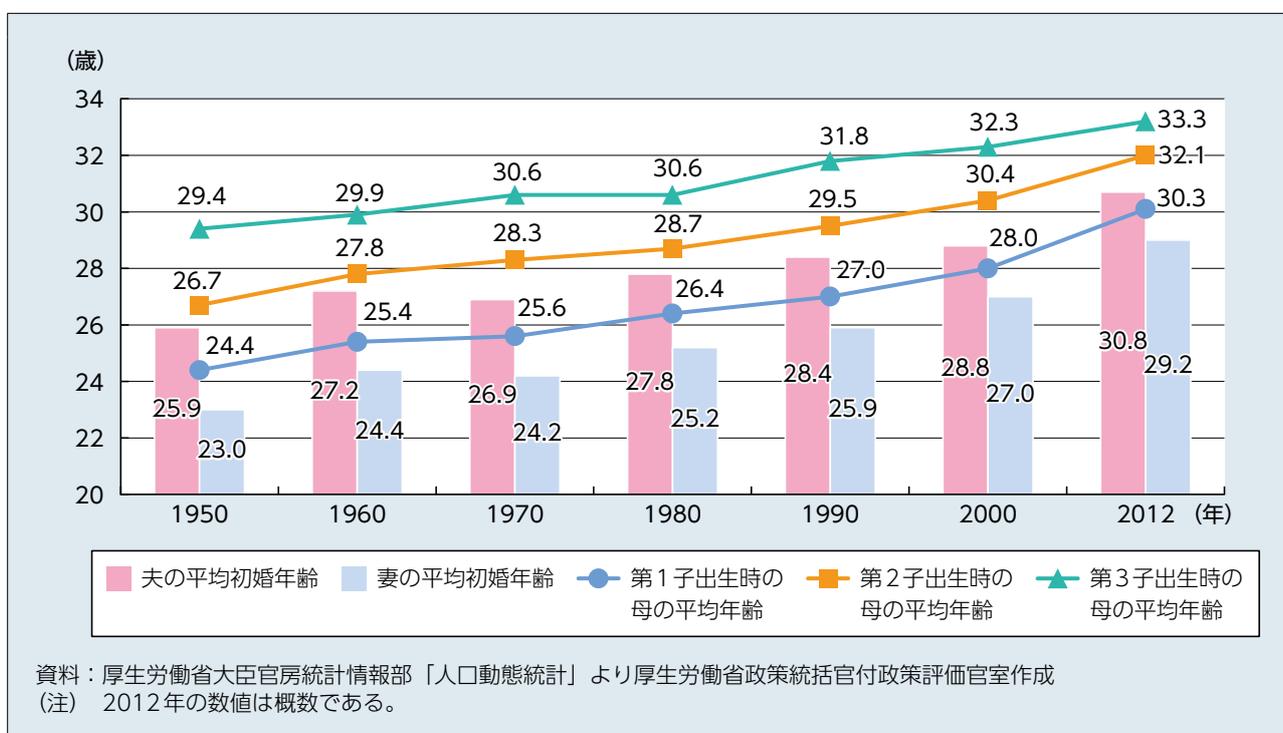
## 4 晩婚化と不妊問題について

＜平成25年版厚生労働白書＞ より

### 晩婚化の進展

大学進学率の上昇、独身者の意識変化などを背景に、結婚する年齢が高くなる晩婚化が進行している。日本人の平均初婚年齢は、2012（平成24）年で、夫が30.8歳、妻が29.2歳となっており、1980（昭和55）年（夫が27.8歳、妻が25.2歳）からの約30年間に、夫は3.0歳、妻は4.0歳、平均初婚年齢が上昇している。また、1950（昭和25）年と比較すると、夫は4.9歳、妻は6.2歳、平均初婚年齢が上昇している。さらに、出生したときの母親の平均年齢をみると、2012年では第1子が30.3歳、第2子が32.1歳、第3子が33.3歳であり、32年前の1980年と比較すると、それぞれ3.9歳、3.4歳、2.7歳上昇している。1950年との比較では、それぞれ5.9歳、5.4歳、3.9歳上昇している。

■図表2-2-3 平均初婚年齢・母親平均出生時年齢推移



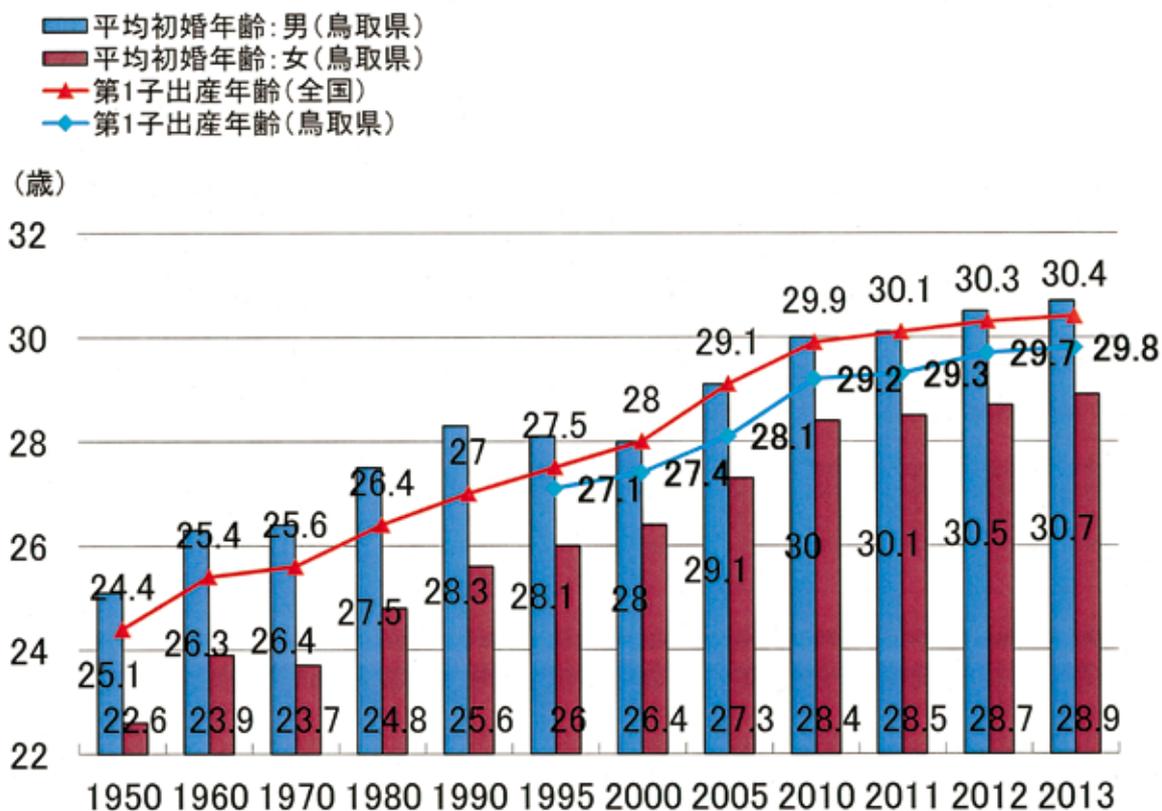
### 年齢と出産リスク等

医学的には男性、女性ともに妊娠・出産には適した年齢があることが指摘されており、30歳代半ば頃から、年齢が上がるにつれて様々なリスクが相対的に高くなるとともに、出産に至る確率が低くなっていくことが指摘されている。男性の精子は思春期以降1日に数千万個作られ、日々、新しい精子が生まれるが、女性の卵子は、出生後新たに作られることはなく、加齢とともに質、量ともに低下する（図表2-2-23）。このため、女性の自然に妊娠する力は30歳頃から低下する。さらに、35歳前後からは流産率も上昇するほか、妊娠高血圧症候群、前置胎盤の母体と胎児に与えるリスクなど、妊娠・出産のリスク

また、男性も加齢とともに妊娠率が低下することが指摘されている。年齢を重ねても若々しさを保つ人が増えていたり、高齢出産のニュースに触れるなどすると「いつでも子どもは持てる」と思う人もいるかもしれないが、年齢が上がると、妊娠・出産に関するリスクが上昇するとともに、妊娠しにくくなることが医学的にも明らかになってきている。

## 鳥取県の平均初婚年齢と第1子出生年齢（母親）について

### ■平均初婚年齢と第1子出生年齢（母親）の推移～晩婚化、晩産化が同時進行～



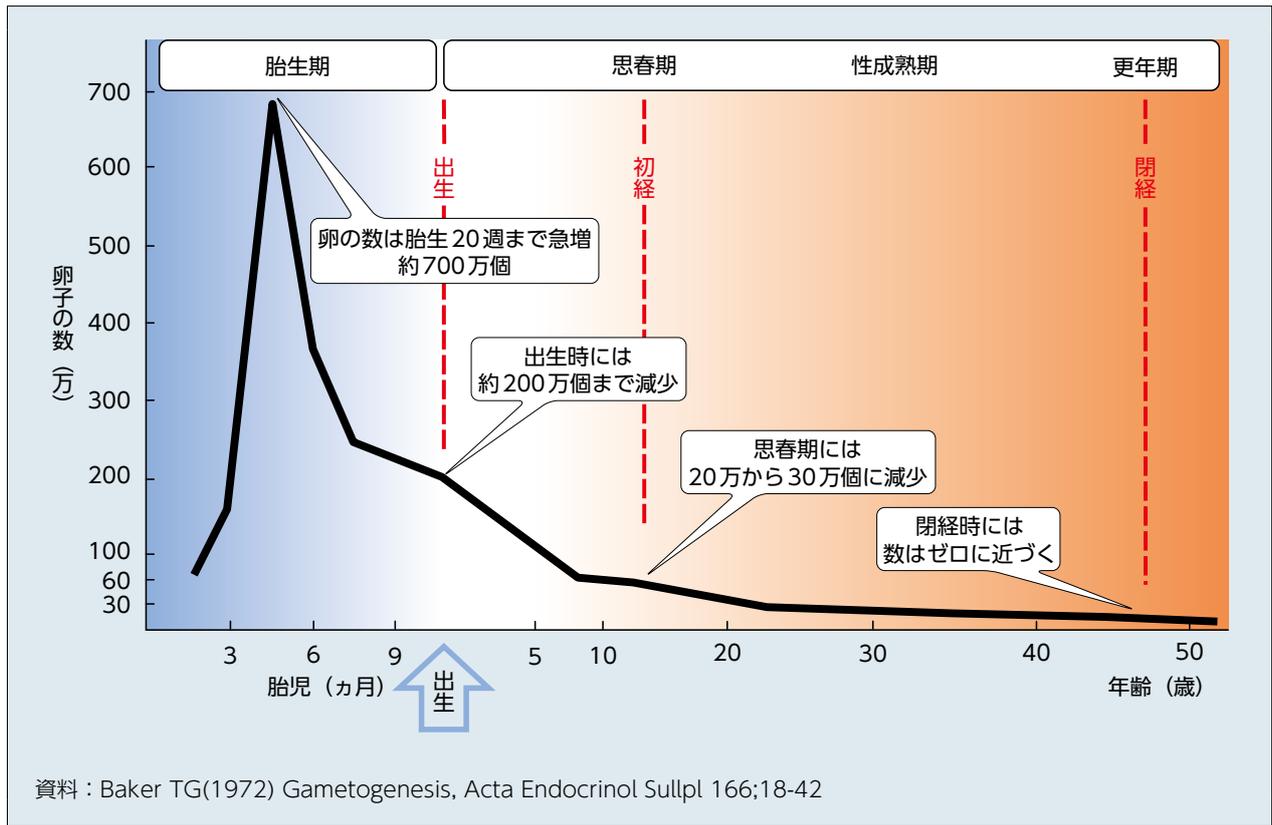
### 実際に子どもを持った場合、もっと早いうちに欲しかったと思う人が多い

子どもを持っている夫婦に対して、「実際に第1子が生まれた時の年齢」と「第1子を産むのに望ましいと思う年齢」を質問した調査結果によると、20歳代後半に子どもに恵まれた人でも、男性の約半数、女性の7割近くが実際に第1子が生まれた年齢よりも早い年齢が望ましいと回答している。晩婚化が進み、女性の平均出生時年齢は上昇しているが、実際に子どもを持つと、もっと若いうちに欲しかったと思う人が多いようである。

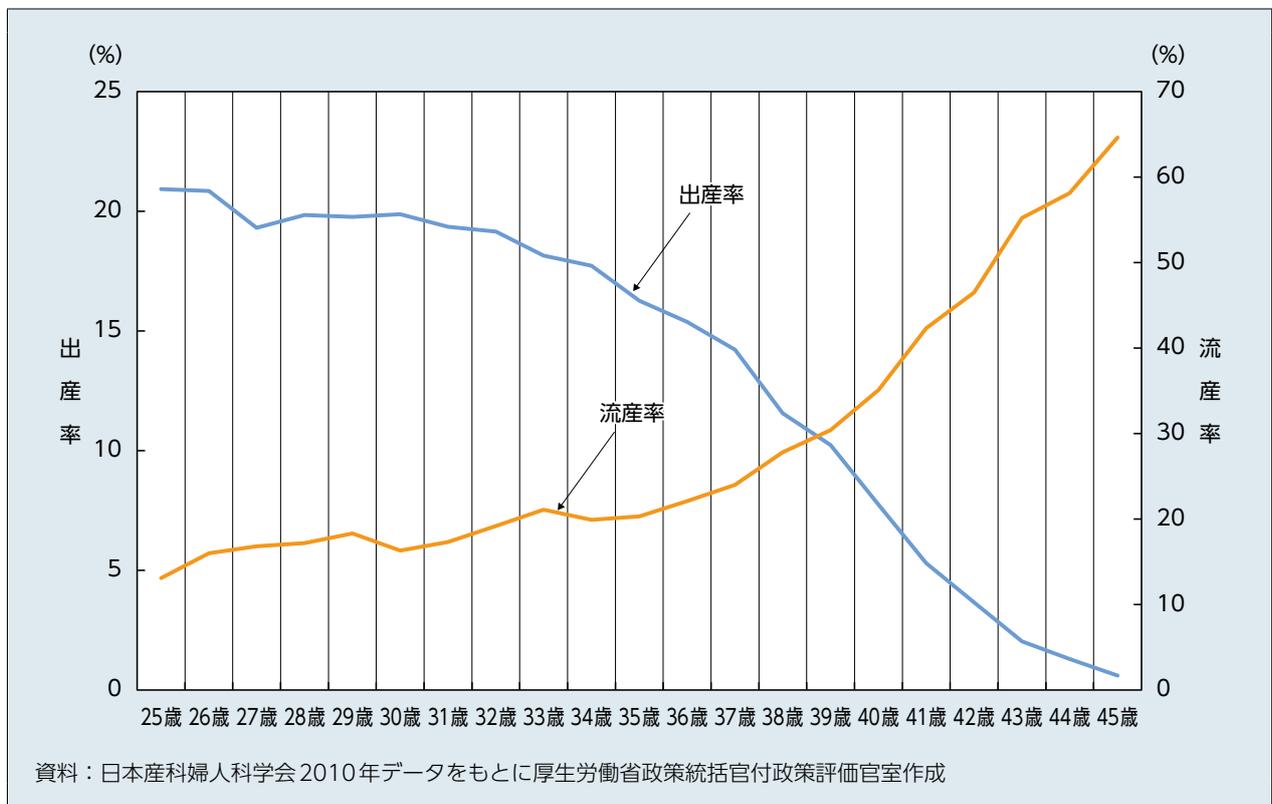
第1子を持つ年齢の理想と現実にはギャップが生じていることも、実際の子どもの数が理想の子どもの数より少ないという結果につながっているものと考えられる。

20歳代や30歳代は、仕事を始めたり、家庭を持ったり、社会の中で自分の役割が充実する重要な時期でもある。妊娠・出産等に関する知識を持った上で、自分のライフプランを考えていくことが重要である。

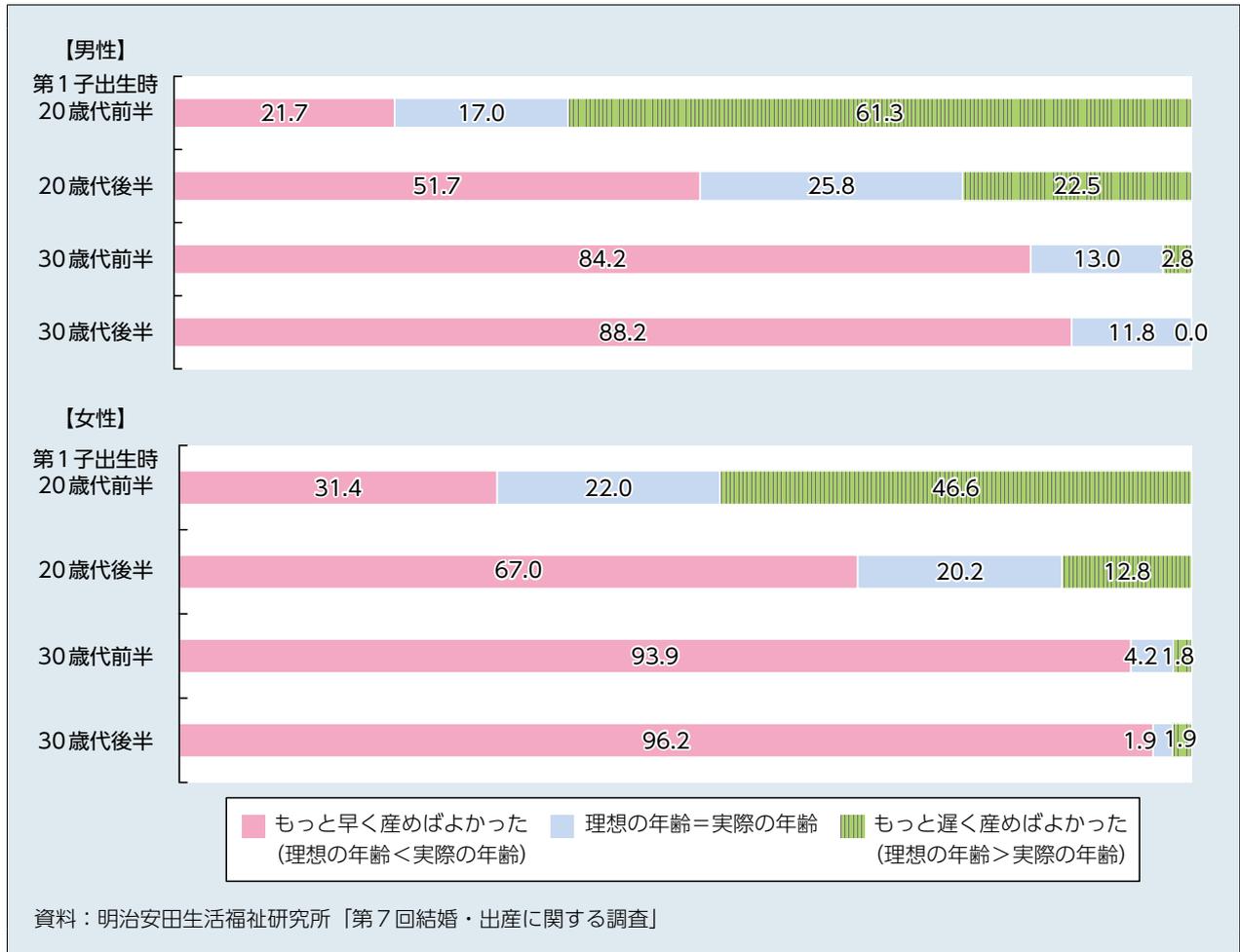
■ 図表2-2-23 女性の年齢の変化による卵子の数の変化



■ 図表2-2-24 不妊治療における年齢別の出産率と流産率



■ 図表2-3-28 第1子が実際に産まれた時の年齢と、第1子を産むのに望ましいと思う年齢の関係



◇胎児期の成長について <母子健康手帳副読本より>

・妊娠第1月（妊娠0～3週6日）

この時期は胎芽とよばれ、身長は約0.4cmとなります。

・妊娠第2月（妊娠4週0日～7週6日）

身長約2cm 体重約4g。体の各器官の形成が始まります。

・妊娠第3月（妊娠8週0日～11週6日）

妊娠10週以降は胎児とよばれるようになります。

身長約9cm 体重約30g。顔や内臓器官が発達し、四肢の区別もでき、ヒトらしい姿になります。

・妊娠第4月（妊娠12週0日～15週6日）

身長約15cm 体重約120g。髪の毛が生え始め、身長がグンと伸び始めます。

・妊娠第5月（妊娠16週0日～19週6日）

身長約25cm 体重約300g。胎児の頭は鶏卵大となり、体全体の1/3を占めるようになります。

全身に産毛がはえ、胎脂という脂におおわれ始める。

早い方（母親）では胎動を感じるようになります。

・妊娠第6月（妊娠20週0日～23週6日）

身長約30cm 体重約600g。胎児は身体の均整がとれてきます。眉毛やまつげが生え、手指に爪が生えます。

・妊娠第7月（妊娠24週0日～27週6日）

身長約35cm 体重約1000g。耳が聞こえるようになります。

足指にも爪が生え、まばたきをするようになります。

皮膚が赤く、しわが多くみられ老人様の外貌をしています。

・妊娠第8月（妊娠28週0日～31週6日）

身長約40cm 体重約1600g。皮下脂肪が増え始め、おなかの中での位置がほぼ定まります。

・妊娠第9月（妊娠32週0日～35週6日）

身長約45cm 体重約2400g。体は丸みをおび、各臓器の機能がほぼ成熟に近づきます。

・妊娠第10月（妊娠36週0日～39週6日）

身長約50cm 体重約3000g。皮下脂肪が完全について、胎外生活の準備が完了します。

この頃になると児頭が骨盤内へ下降します。



「推定胎児体重と胎児発育曲線」保健指導マニュアル より

※平成23年度厚生労働科学研究費補助金（成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業）「地域における周産期医療システムの充実と医療資源の適正配置に関する研究」

■図表1-1 胎児発育曲線

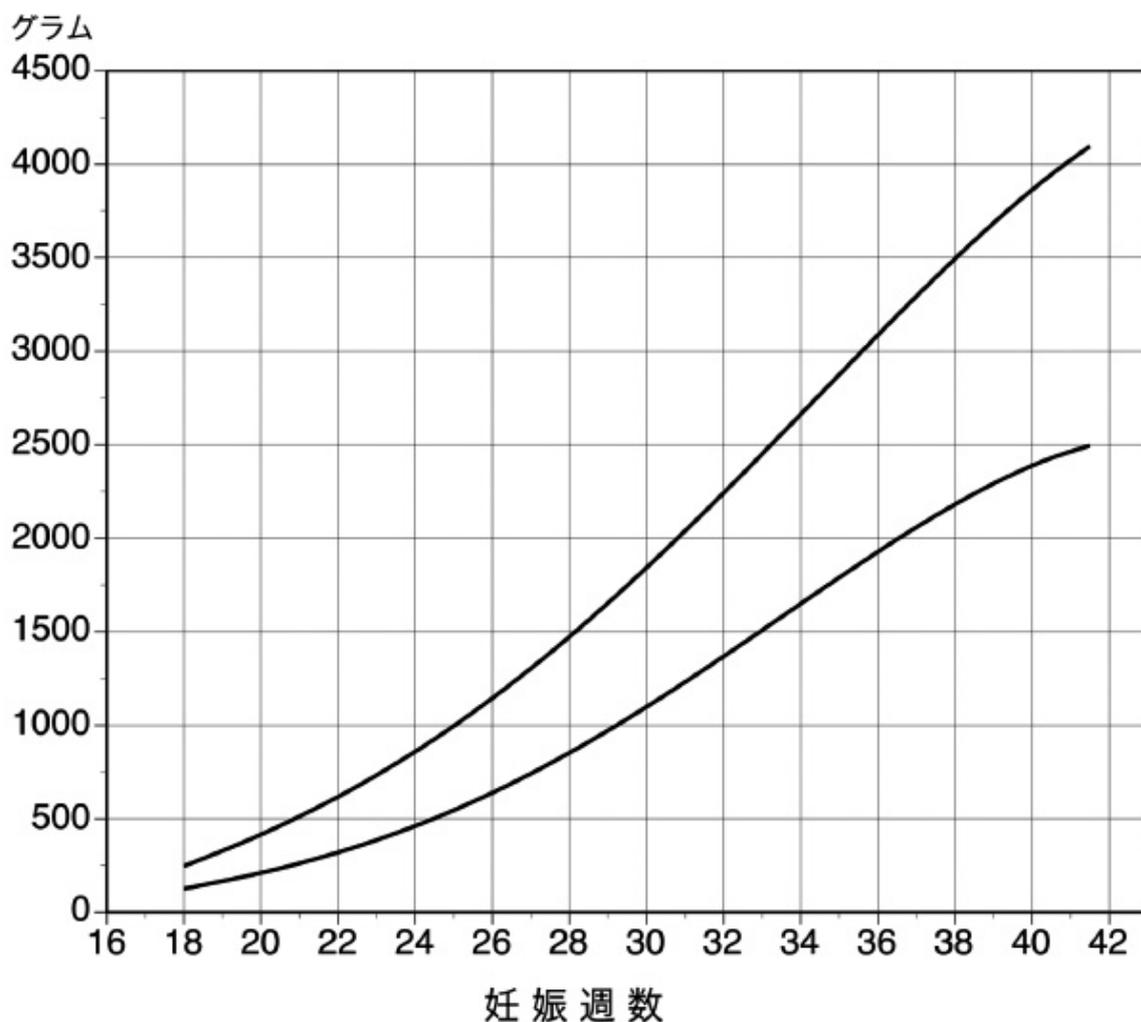


図1-1 に示す胎児発育曲線は、推定された胎児体重を評価するための基準になるものです。この曲線は、多数の正常な体重で生まれた新生児の妊娠中の計測値、つまり「結果的に正常に生まれた胎児」の計測値から、同じ計算方法で算出された推定体重をもとに作られています。

推定体重にはある程度の誤差がありますから、胎児の性別・初産経産による違いは、実用上考慮する必要がないことがわかっています。正常な体重で生まれる児の約95.4%はこの上下二本の曲線の間にはいます。胎児発育曲線に実際の計測値に基づいた推定胎児体重を書き入れることで、胎児の発育の状態がわかりやすくなります。

◇性に関する悩み・トラブル、児童生徒の性に対する考えについて

平成23年度に行われた「第7回青少年の性行動全国調査」の結果より

※青少年の性行動全国調査とは

青少年の性についてのさまざまな意識や態度、経験を明らかにし、社会的背景などとの関連を検討する調査。調査の開始は1974年。それ以後6年ごとに実施。

同調査は、人口が100万人を超える大都市4地点、その他の中都市4地点、町村3地点から地域規模や学校種別、生徒数などを考慮して中学校9校、高校11校、大学31校を選び、自記式集合調査を実施したものの。

<出典：日本子ども資料年鑑 2015 Ⅲ発育・発達 3性>

### 3. 性

#### 1. 青少年の性行動・意識

Ⅲ-3-1表 友人・異性との付き合い (平成23年度)

1. 友人や付き合いしている人に携帯電話で送るメールの数(1日あたり) (%)

区 分	中 学		高 校		大 学	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子
5通未満	16.5	18.0	48.0	36.4	49.3	41.0
5～9通くらい	8.5	12.4	22.5	25.7	28.4	33.7
10～19通くらい	4.4	15.2	11.7	14.3	14.5	16.5
20通以上	13.4	16.0	16.2	22.7	7.2	8.7
携帯電話を持っていない	56.2	35.7	1.4	0.9	0.3	0.0
わからない・無回答	1.0	2.7	0.2	0.1	0.3	0.1
回答対象人数(人)	1,260	1,244	1,289	1,289	1,443	1,115

2. よく話をする同性の友人がいるか (%)

区 分	中 学		高 校		大 学	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子
たくさんいる	74.7	65.0	52.1	56.0	36.4	34.7
数人いる	23.1	31.8	44.3	42.5	56.7	60.1
1人いる	0.6	0.4	1.2	0.8	2.4	2.2
いないのでほしい	0.2	0.1	1.1	0.1	2.6	1.3
いないが、特にほしいと思わない	1.2	0.6	1.3	0.7	2.0	1.7
わからない・無回答	0.2	2.3	0.0	0.0	0.0	0.1
回答対象人数(人)	1,260	1,244	1,289	1,289	1,443	1,115

3. よく話をする異性の友人がいるか (%)

区 分	中 学		高 校		大 学	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子
たくさんいる	20.1	22.1	15.4	13.4	17.1	11.6
数人いる	47.5	52.7	48.4	58.3	55.7	56.7
1人いる	3.4	4.3	5.3	4.4	6.7	8.3
いないのでほしい	4.0	3.8	12.4	5.9	10.9	11.4
いないが、特にほしいと思わない	23.8	15.0	17.7	16.8	9.6	11.8
わからない・無回答	1.3	2.1	0.9	1.1	0.0	0.2
回答対象人数(人)	1,260	1,244	1,289	1,289	1,443	1,115

4. 付き合いしている人がいるか (%)

区 分	中 学		高 校		大 学	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子
1人いる	12.2	13.3	20.4	27.7	36.7	37.3
複数いる	0.2	0.4	0.5	0.5	1.9	0.6
いないのでほしい	25.9	35.7	44.6	35.0	41.0	37.5
いないが、特にほしいと思わない	60.3	47.1	32.8	35.2	19.7	24.4
わからない・無回答	1.3	3.6	1.7	1.6	0.7	0.2
回答対象人数(人)	1,260	1,244	1,289	1,289	1,443	1,115

5. デートをする相手がいるか (%)

区 分	中 学		高 校		大 学	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子
1人いる	34.7	40.4	36.3	43.2	49.4	50.5
複数いる	3.9	1.9	1.5	2.8	9.5	7.2
いない	60.5	56.7	60.4	50.3	40.8	41.8
わからない・無回答	0.6	1.1	1.9	3.6	0.3	0.5
回答対象人数(人)	311	270	684	743	1,111	857

(注) 調査対象は、札幌市、東京都、京都市、福岡市、青森市、弘前市、松江市、熊本市、宮城県、栃木県、高知県の中・高・大学生7,682人。調査時期は平成23年10月～24年2月。層化三段法により対象を抽出し、中・高校生は学校での自記式集合調査、大学生は自宅等で記入。資料：日本性教育協会「第7回青少年の性行動全国調査」2012

Ⅲ-3-2表 性的なことに関心を持ったことの有無 (平成23年度)

区 分	中 学		高 校		大 学	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子
ある	41.8	32.3	76.6	41.0	93.8	73.5
ない	55.9	65.9	19.2	49.1	5.8	23.8
わからない・無回答	2.3	1.8	4.2	9.9	0.4	2.8
回答対象人数(人)	1,260	1,244	1,289	1,289	1,443	1,115

注) 調査対象は、Ⅲ-3-1表注)に同じ。

2. セックス(性交)をするとき、避妊を実行しているか

区 分	高 校		大 学	
	男子	女子	男子	女子
いつもしている	53.2	53.7	80.7	74.5
場合による	13.7	20.7	12.4	18.1
いつもしていない	3.2	2.9	2.7	1.5
わからない・無回答	29.8	22.7	4.2	5.9
回答対象人数(人)	124	242	477	392

4. セックス(性交)をするとき、必ずコンドームを使用しているか

区 分	高 校		大 学	
	男子	女子	男子	女子
かならず使用する	81.8	81.5	84.9	78.7
使用したりしなかったりする	10.6	16.2	12.2	17.5
使用しない	6.1	0.8	1.6	3.4
その他	1.5	0.8	0.5	0.0
わからない・無回答	1.5	0.8	0.8	0.3
回答対象人数(人)	66	130	385	292

注) 調査対象は、Ⅲ-3-1表注)に同じ。中学生には調査を行っていない。3. は、複数回答。5. は2. で「場合による」、「いつもしていない」と答えた者が回答。複数回答。

Ⅲ-3-3表 避妊についての行動 (平成23年度)

1. 避妊について、相手と話をするか

区 分	高 校		大 学	
	男子	女子	男子	女子
よくする	30.2	26.9	26.3	37.1
ときどきする	52.3	53.2	45.3	42.5
あまりしない	15.1	17.2	22.3	16.3
したことがない	2.3	2.7	5.9	3.8
わからない・無回答	0.0	0.0	0.2	0.3
回答対象人数(人)	87	186	456	368

3. 避妊の方法

区 分	高 校		大 学	
	男子	女子	男子	女子
コンドーム	90.9	96.9	96.6	95.2
ピル(経口避妊薬)	1.5	2.3	3.1	11.3
月経からの日数を数える(オギノ式)	1.5	10.8	4.7	12.3
基礎体温をはかる	0.0	0.0	0.0	3.1
膣外射精法(精液を外に出す)	19.7	14.6	9.6	16.4
その他	1.5	0.0	0.0	0.7
わからない	0.0	0.0	0.5	0.7
回答対象人数(人)	66	130	385	292

5. 避妊を実行しない理由

区 分	高 校		大 学	
	男子	女子	男子	女子
めんどくさいから	19.0	14.0	37.0	23.7
準備していないことが多いから	76.2	28.1	21.9	30.3
たぶん妊娠しないと思うから	23.8	26.3	20.5	43.4
避妊を言い出せないから	0.0	3.5	4.1	9.2
相手に断られるから	4.8	10.5	13.7	6.6
避妊法を知らないから	0.0	0.0	0.0	1.3
妊娠したら、産むつもり・産んでもらうつもりだから	4.8	19.3	6.8	7.9
妊娠しても、中絶すればよいと思うから	0.0	0.0	4.1	1.3
その他	4.8	10.5	19.2	17.1
回答対象人数(人)	21	57	73	76

Ⅲ-3-4表 性差、性別役割分担についての意識 (平成23年度)

1. 女性よりも男性の方が性欲が強いと思う

(%)

区 分	中 学		高 校		大 学	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子
そう思う	14.5	27.3	20.9	25.0	16.8	23.0
どちらかといえばそう思う	21.7	30.4	25.4	33.8	26.8	34.7
どちらかといえばそう思わない	9.1	6.8	10.8	4.7	15.0	11.2
そう思わない	16.1	8.3	8.5	8.5	17.5	13.2
わからない	37.7	27.0	32.4	26.8	23.3	16.3
無回答	0.8	0.2	2.1	1.3	0.6	1.6
回答対象人数(人)	1,260	1,244	1,289	1,289	1,443	1,115

2. 男性は外で働き、女性は家庭を守るべきだと思う

(%)

区 分	中 学		高 校		大 学	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子
そう思う	17.4	10.3	7.2	3.2	3.3	2.0
どちらかといえばそう思う	25.6	22.4	17.6	12.9	16.2	11.3
どちらかといえばそう思わない	11.4	14.7	19.6	17.9	20.8	20.4
そう思わない	30.4	44.1	38.4	57.6	53.3	60.3
わからない	14.6	8.1	15.1	7.1	5.8	4.6
無回答	0.6	0.4	2.0	1.3	0.6	1.5
回答対象人数(人)	1,260	1,244	1,289	1,289	1,443	1,115

3. 女性は働いていても、家事・育児のほうを大切にすべきだと思う

(%)

区 分	中 学		高 校		大 学	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子
そう思う	22.6	37.6	16.8	16.3	7.6	8.9
どちらかといえばそう思う	29.2	30.8	29.8	36.7	30.9	30.8
どちらかといえばそう思わない	14.3	10.9	16.3	17.8	19.5	23.9
そう思わない	18.7	10.9	20.6	19.5	34.0	27.2
わからない	14.6	9.6	14.6	8.3	7.3	7.7
無回答	0.6	0.1	2.0	1.3	0.6	1.5
回答対象人数(人)	1,260	1,244	1,289	1,289	1,443	1,115

(注) 調査対象は、Ⅲ-3-1表(注)に同じ。

資料：日本性教育協会「第7回青少年の性行動全国調査」2012

Ⅲ-3-5表 性について学校で教わったことがある内容 (平成23年度)

(平成23年度)

(%)

区 分	中 学		高 校		大 学	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子
妊娠のしくみ	80.3	84.6	82.9	87.5	87.2	91.4
セックス(性交)	36.4	32.6	55.6	51.5	61.3	56.3
避妊の方法	20.2	17.8	74.2	78.3	80.5	79.8
人工妊娠中絶	15.4	12.7	55.9	60.7	53.2	57.5
自慰(マスターベーション, オナニー)	46.6	24.4	54.2	29.9	49.5	23.6
H I V / エイズ	63.6	63.6	87.5	86.0	88.8	91.2
クラミジアや淋病など性感染症(性病)	24.8	24.5	63.0	64.9	62.7	61.9
男女の心の違い	62.3	70.0	53.5	54.5	48.2	42.7
恋愛	40.2	39.3	33.7	26.9	31.0	26.3
男女平等の問題	36.8	34.2	61.0	52.2	66.0	64.5
セクハラ、性暴力の問題	44.6	42.8	50.7	48.9	66.5	59.7
性の不安や悩みについての相談窓口	20.3	17.8	29.0	21.2	35.8	34.5
性的マイノリティ(同性愛、性同一性障害など)	7.1	5.3	19.2	15.1	41.7	41.9
その他	1.9	0.9	1.5	0.5	1.4	0.9
特に教わったことはない	4.2	1.9	2.8	0.4	1.7	0.3
わからない・無回答	2.1	1.0	5.0	6.3	1.1	1.6
回答対象人数(人)	1,260	1,244	1,289	1,289	1,443	1,115

(注) 調査対象は、Ⅲ-3-1表(注)に同じ。複数回答。

Ⅲ-3-6表 性について知りたいこと (平成23年度)

(平成23年度)

(%)

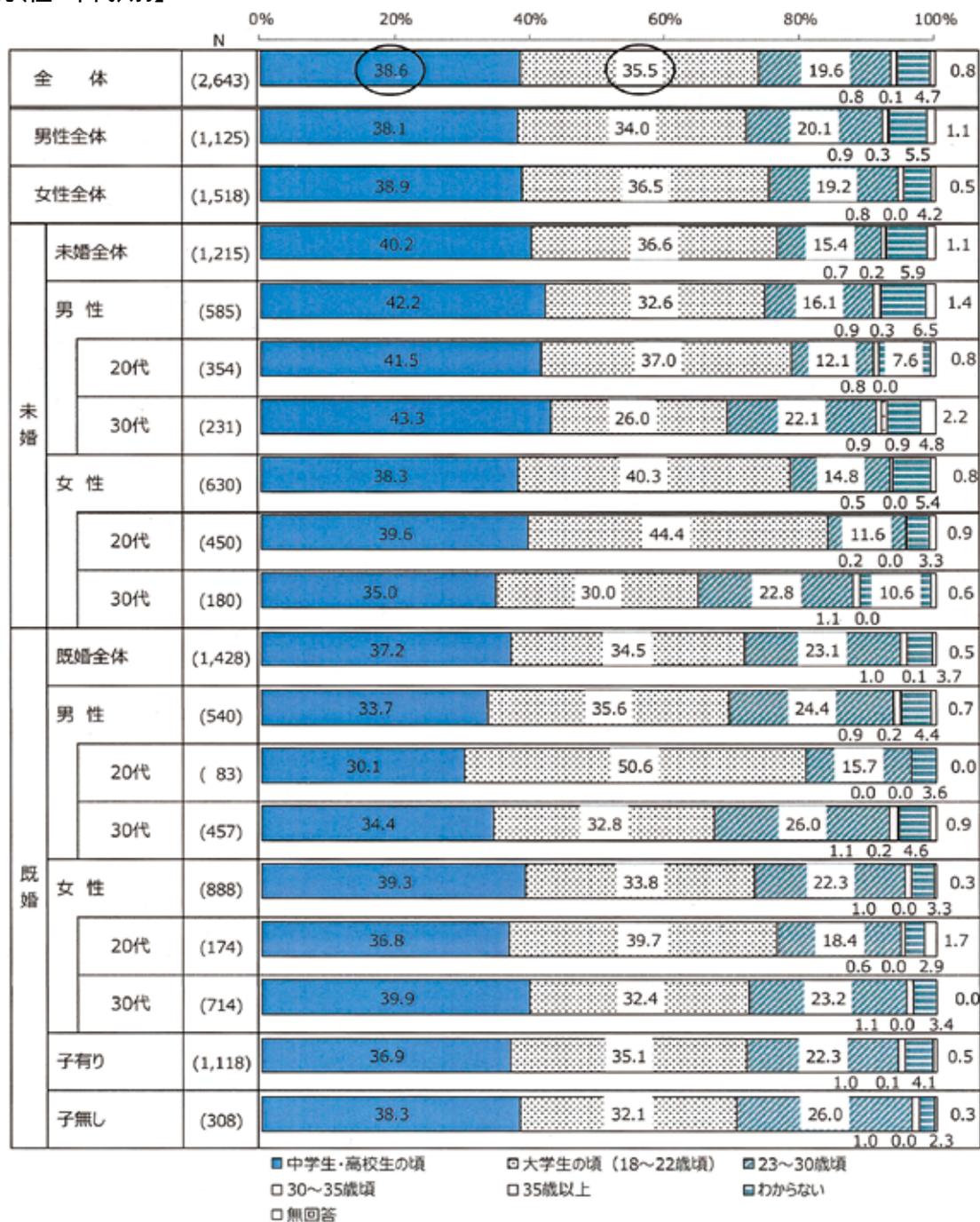
区 分	中 学		高 校		大 学	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子
妊娠のしくみ	3.6	8.3	2.8	3.4	8.1	6.0
セックス(性交)	13.1	14.2	5.4	7.7	15.4	12.6
避妊の方法	6.8	14.4	13.6	7.6	10.3	14.2
人工妊娠中絶	5.6	6.8	8.5	5.0	11.2	9.7
自慰(マスターベーション, オナニー)	8.3	14.6	4.3	5.8	6.0	8.4
H I V / エイズ	7.6	11.1	6.5	8.4	18.7	17.7
クラミジアや淋病など性感染症(性病)	8.4	12.5	10.9	10.6	19.1	22.0
男女の心の違い	10.3	12.1	11.6	16.8	27.9	30.4
恋愛	18.8	28.3	16.0	21.1	26.1	27.7
男女平等の問題	5.7	7.2	21.7	6.3	14.1	13.3
セクハラ、性暴力の問題	4.4	7.0	6.6	4.9	10.4	10.0
性の不安や悩みについての相談窓口	3.7	5.4	5.0	7.3	8.9	13.6
性的マイノリティ(同性愛、性同一性障害など)	7.6	13.7	3.8	15.7	20.0	23.3
その他	0.7	0.7	7.0	1.6	1.9	0.8
特に知りたいことはない	59.4	44.1	2.5	42.7	32.8	26.4
わからない・無回答	4.8	2.2	4.5	6.3	0.8	1.6
回答対象人数(人)	1,260	1,244	1,289	1,289	1,443	1,115

(注) 調査対象は、Ⅲ-3-1表(注)に同じ。複数回答。

Ⅲ-3-5表・6表 資料：日本性教育協会「第7回青少年の性行動全国調査」2012

「家族と地域における子育てに関する意識調査報告書」より

■図表37-1 妊娠・出産の医学的情報について知っておくべきと考える時期[055](SA)(全員)  
【性・結婚状況(性・年代)別】



・全体では、「中学生・高校生の頃」が38.6%と最も高く、次いで「大学生の頃（18～22歳頃）」が35.5%であり、学生の頃に知るべきとする回答が7割強にのぼる。

※この調査における「妊娠・出産の医学的情報」とは、女性の妊娠する力は35歳前後からだんだんと下がり始め、40歳を過ぎると妊娠はかなり難しくなる（（公社）日本産科産婦人科学会調べ）という情報である。